

天保十四年卯五月日

下書

御上若旦那併馬様被為遊
御入城候付諸事心控帳

2 (白紙)

3

御触写し

一 惣町貸家之義見苦敷無之様取繕之義

被仰渡町々申代より可申候間急々夫々御取繕

可被成候、以上

末次彦右衛門

五月十二日

一 町方損所取繕并道造候義先達而被仰付候

付出来候所明日御見分可有之候所一日御猶予

相成明後廿一日御見分之旨被仰渡候間此段

左様御心得可被成候、以上

同家

五月十九日

4 帰里那様此度被為遊御入城候甲、尤

曲限之義不近申可被仰出申被仰渡候間此段

左様御心得

同家

5 五月廿甲

若旦那様□る廿六之御発駕、同廿八日被為遊

御入城候由申頼旨被仰渡候

十木津米主~~トモ~~保町願之通御闇届被

仰付候事被仰渡候

右之通左様御心得可被成候

5 五月廿十甲

来ル廿八日被為遊御入城候付町家

出来之者共旧例之通御迎~~ニ~~罷出候様被

仰渡候、尤病氣故障も有之候ハ、其旨書附
明朝迄~~ニ~~私宅へ御廻し可被成候、以上 同家

五月廿六日

御用御目見へ之節心得のため

廿六日同席申合御座敷拝見~~ニ~~罷出引野

久之丞殿相願寛々拝見いたし候事

一 御入城御当日、且又御発駕之節町方

御通行筋盛砂并水打提桶等

6 差出し翠簾釣候様

一 御通之節町家之者座敷の上にて拝見

致候義ハ不相成候間庭へ下り敷物をしき
敷居之内ニ而拝見可致事

一 九曜御紋付拝領日仰付候者共一代切ニ
候處猥りニ着用致候趣も有之候様相聞

已來ハ拝領致候者之外嫡子之義も
着用不相成旨被仰出候

若旦那様明廿七日御来屋御泊り候而明後
廿八日御入城被為遊旨、尚又被仰渡候一同

7 当日巳之上刻旧例之通御迎ニ御出可成候

五月廿六日 末次彦右衛門

廿八日巳之刻同席之者勝田社舞戸

此度

彼是余程隙入候様子

ニ相詰時刻相見合候内牛之刻二小たり口

候ニ付二付二並當取寄支度二付二仕舞等相仕舞候内

遠見の者より寺尾貴船社へ御着之よし
申出ニ付例之法城寺前ニ遣ニ出迎

候處尤未之刻御入府被為遊、尤御徒士
衆より仲中腰ニ相成御打物より下座

致し罷在候處御奏者山内猪之丞様より

別触之町人ニ御披露被成町年寄共ヘハ

御同役築瀬九七郎様より年寄之者共ト

御披露有之ニ付ニ事 付たり御家老牛尾

九郎右衛門様御供ニ付御挨拶申上直様大道を
通り罷帰り□□ニ而御行烈拝見いたし

8

少し相見合御老役村瀬日置牛尾御町奉行

中村瀬・熊沢大目附伊木御長臣村右

七軒御入城御歎ニ罷出候事